

Vol.191

2025.7

■発行責任所■
別府市自衛隊協力会

■印刷■
(株)電子印刷センター

地域とともに、生きる・守る

扇山

OHGIYAMA

別府駐屯地広報誌

紙面リニューアルの
お知らせ!

皆さまに、より親しみ
を持って楽しく読んでい
ただけるよう、このたび
リニューアルをしました!
ぜひ手に取りお持ち帰
りください!

自衛官候補生課程教育

自衛官候補生課程教育入隊式



未来を守る、誇り高き一歩

3面

別府駐屯地所属部隊 投稿記事

駐屯地の運営や部隊を支える後
方部隊など様々な方面で活躍する
部隊の投稿記事を紹介します!



2面

第2次連隊練成訓練

第2次連隊練成訓練は北富士演
習場で実施され、FTC訓練に参加
をしました! そもそもFTC訓練と
は? 訓練に励む隊員と併せてご紹
介します!



2面

兄弟で自衛官をしています!

別府駐屯地に所属する隊員の中
には、兄弟で入隊を決意した隊員
がいます! 友達のような仲の良い
お二人にインタビューしました!



←-----NEXT PAGE

様々な記事をご用意しています!!

令和7年度 自衛官候補生 課程教育

陸上自衛官としての基礎を
学ぶ3ヶ月

連隊は、自衛官候補生21名に対し、教育を実施しました。陸上自衛官としての基礎的な技術と技能を身に付けるため、「敬礼」などの基本教練から始まり、射撃や徒步行進、戦闘訓練などの訓練に取り組みました。また、集団生活を通じて、助け合いや喜びを分かち合う中で、同期との絆は自然と深まっていき、共に過ごす時間が信頼を育み、強い結びつきとなりました。令和7年6月22日(日)には来賓の方々や、自衛官候補生のご家族の方が見守る中、自衛官候補生の全過程を修めたとして修了式が挙行されました。

成績優秀につき、連隊長賞を受賞した安野利久候補生は「苦しいことも同期達と共に乗り越えることができました。中でも会話を最小限にした徒步行進訓練では、無言の中でも一体感を感じました。これから同期達とは離れ離れになり、とても寂しく思います。それでもいつかまた、自衛官として成長していく中で、どこかで再会できることを願い、日々精進して参ります。」と述べた。また自衛官候補生のご家族からは「この3ヶ月で一気に大人になり、頼もしく感じるようになった。我が子の姿を眺めながら語っていました。自衛官候補生の教育に臨むために九州各地の駐屯地へ立ちまわりました。」



入隊時に比べ、日差しを浴びた顔はすっかり日焼けし、たくましさがいじんでいました。

兄弟で自衛官を志しています



「私達、ほんとに仲の良い友達みたいな兄弟なんです。そのうち肩を組むことも自然な2人はなぜ自衛隊に？なぜ別府駐屯地に？様々なお話を聞いてみました。」



1等陸士 藤原 優真
第41普通科連隊第1中隊に所属しており、主に迫撃砲乗手として勤務をしている。弟から見た兄の性格は「フレンドリーで面倒見が良い」



陸士長 藤原 愛斗
第41普通科連隊第3中隊に所属しており、主に小銃手として勤務をしている。兄から見た弟の性格は「マイペースな負けず嫌いな」

Q 二人はなぜ自衛官を目指したのですか？
藤原 兄 私は純粋にかっこいいなと憧れて自衛官になりました。
藤原 弟 私は中学生の時に職場体験学習で、別府駐屯地を訪れ、自衛隊の魅力的な所を直に感じて、その時から自衛官になろうと決意しました。

Q 二人は別府駐屯地で勤務しているのですか？
藤原 兄 同じ第41普通科連隊で勤務していますが、私が第1中隊、兄が第3中隊で勤務をしています。同じ普通科隊員でも私は迫撃砲を取り扱う仕事ですし、兄は小銃等の軽火器を取り扱う仕事です。

藤原 兄 中隊は違いますが、連隊の持続走訓練隊に所属しているので、二人で訓練する事が多々あります。訓練隊ではライバルですね。弟だけには絶対負けたくない！というプライドはあります。

藤原 弟 高校時代は同じ駅伝部だったのですが、その関係性は変わらないうですね。

Q 同じ職場に兄弟がいるのがたかどき感じたりはありますか？
藤原 兄 新隊員教育で教育中、1年先に入隊した兄によく質問していて、アドバイスを受けていました。ちょっと精神的にきついなと思った時も、話を聞いてくれました。兄は聞き上手で、いつも相談に乗ってくれました。さすが「お兄さん」だなと思います。

藤原 兄 最近、よく「藤原1士のお兄さんですね？」と話しかけられることが多くなりました。弟の交友範囲も加わって、楽しいです。

Q 最後にお二人の目標を教えてください。
藤原 兄 もちろん陸曹になる事です。スタッフとして自衛官候補生課程教育に携わったのですが、0から物事を教える重要性を直に感じました。私も陸曹になり、教育隊の班長をやってみたいです。

藤原 弟 私は兄より先に陸曹になる事です！無理ならせめて同じ時期に陸曹教育隊に入校したいですね。兄と競いながら、切磋琢磨して頑張れる気がします。



藤原(弟)1等陸士は中学生時代から自衛隊に興味を持っており、職業体験学習で別府駐屯地を訪れていました。



学生時代は駅伝部に入部していたため、長距離走が得意。自衛隊に入隊してからも持続走訓練隊に所属していました。



別府市出身で、休日は実家に帰省することが多い。好きな食べ物を聞くと、「お父さんの卵焼き」と口を揃えて笑っていました。

協力団体の活動状況

別府駐屯地では、多くの団体の皆さまからご支援とご協力をいただいております。心より感謝申し上げますとともに、ご支援を賜っている団体の皆さまの活動状況を紹介いたします。

別府市家族会



自衛官候補生課程教育の徒步行進訓練実施中に、別府市家族会の皆様からご支援をいただきました。厳しい訓練の中、温かい拍手と励ましの言葉が送られました。中には訓練中の隊員のご家族も駆け付け、我が子の勇姿に感銘を受けていた様子でした。心より感謝申し上げます。

第41普通科連隊OB会



別府駐屯地入り口前の看板の老朽化に伴い、看板用パネルを、第41普通科連隊OB会を代表して、会長 伊藤輝信氏より寄贈していただきました。別府駐屯地にて有効に活用していくとともに、ご厚意に感謝を申し上げます。



出発前の別府駐屯地では、地図等を用いて、何度も図上予行を行い、認識の統一を図りました。



装備品の点検や任務の理解の確認などを行う隊容検査に、真剣な面持ちで挑みました。



訓練終了後に行われた研究会では、一人一人が熟考し、意見を出し合っていました。

第2次連隊訓練成訓練

連隊は、令和7年5月15日(木)から28日(水)までの間、連隊訓練成訓練として、第2中隊及び本部管理中隊隊員による訓練成訓練を実施しました。不慣れた土地といこともあり、事前に地図等を用いて、図上予行を行うとともに、現地に着ると、部隊間の調整を入念に行い、堅固な防御陣地を構築し、本訓練に臨みました。

隊員は実戦を想定した連続状況の中、土気高く任務に邁進し、訓練終了後は部隊訓練評価隊による評価・分析をもって研究会が行われ、意見交換等を実施しました。本訓練で得た教訓を基に、今後も部隊の能力向上に努めていきます。

第111回 別府八湯温泉まつり 支援

別府駐屯地は、4月6日(日)に別府八湯温泉まつりの支援を実施した。別府の温泉のめぐみに感謝するとともに、自衛隊へのご理解の促進、地域との連携を深めることができました。



湯ぶっかけまつりでは、別府駐屯地書友会会員が神輿を担ぎ参加。温泉をかけられながら「ワッショイ」と大きな掛け声とともに、御輿を軽々と持ち上げていました。



湯けむり総パレードでは、第41普通科連隊音楽部及び湯布院駐屯地音楽部が自衛隊行進曲を演奏。後続しオートバイ、軽装甲機動車、82式指揮通信車が大きな駆動音を響かせ別府駅前通りを行進しました。

優秀隊員紹介

- 本部管理中隊
 - 1等陸曹 岩尾忠浩
- 第2中隊
 - 3等陸曹 佐藤昌平
 - 狙撃班 北島隆寛
 - 3等陸曹 来馬太陽
 - 第1小隊 大島達也
 - 第2小隊 立田圭佑
 - 第3小隊 岩下偉津
 - 陸士長 岩下偉津
 - 迫撃砲小隊 岩下偉津
 - 1等陸士 岩下偉津



Fuji Training Centerの略で部隊を評価・分析し教訓を与えることにより部隊の精強に寄与する部隊。人員・火器・車両等にレーザー受光部を装着し、火器等に取り付けたレーザー光線と空包等により、損耗判定を実施し、より実践的な状況で訓練が行われます。

別府駐屯地業務隊

駐屯地給食で
地産地消の取り組み

今年度の別府駐屯地給食では、毎月地産地消献立を一品取り入れる計画をしています。5月には大分県産鶏肉として知られている「冠地どり（かんむりじどり）」を使って冠地どりのスープカレーを提供しました。

ベースとなるスープは、安心院のすっぽんと冠地どりの鶏がらを合わせた出汁を使用しました。その濃厚で奥深い味を生かすためにスープカレーに仕上げました。いつものカレーライスとは違った感じで、喫食者の皆様に大変好評でした。

今後も地産地消献立として、大分とり天、とりめし、だんご汁、やせつまなどの郷土料理や、かぼすぶり、県産牛肉、豚肉等の献立も提供予定です。皆様からのリクエストもお待ちしております。



鶏とすっぽんの合わせ出汁は味わい深く栄養満点。スープカレーにすることでライスとスープを分けて食べられるため、そのままの味が楽しめます。

第404会計隊

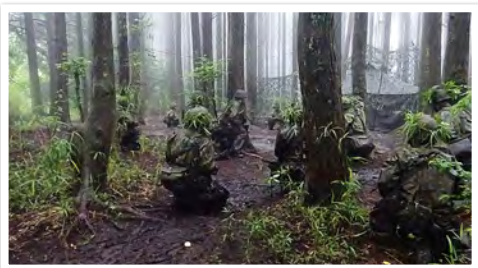
西部方面会計隊
訓練検閲受閲にむけて

会計隊は、令和7年8月に、西部方面会計隊訓練検閲を受閲予定です。部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作の向上を図るため、5月中旬より各種訓練を始めました。

各個防護、歩哨、彼我不明者対応、検問、掩体構築、天幕展張、有線構成、車両点検、チェン装脱着等様々な練成訓練を実施し、6月15日（日）～17日（火）までの間、大矢野原演習場において集中野外訓練を実施しました。

各人の今できる精一杯のこと、今はまだ十分なことを認識し、みなそれぞれ自分の成果を得られました。

検閲まで残り2ヶ月と短い期間ではありますが、今回の集中野外訓練で学んだことを次回以降の訓練に活かし、検閲に向けて更なる練度向上を図りたいと思います。



梅雨に入り、視覚の悪化や足元のぬかるみ、蒸し暑さなど心身ともに疲弊しやすい。その中でも訓練に邁進し、課題を見出し、糧となる訓練でした。

第3普通科直接支援中隊

暑熱順化訓練

第3普通科直接支援中隊は、4月から5月までの間に、暑熱順化訓練を実施しました。

本訓練は、近年における高温・多湿の環境下においても、非戦闘損耗を出すことなく、部隊の健在性を維持できる身体を作ることを目的として実施したもので、訓練を終了した隊員からは、「思ったより汗をかくて驚いた。」「猛暑での訓練を乗り切る自信が湧いた。」等の意見が寄せられ、隊員の暑熱耐性獲得と熱中症対策に対する知識の向上につながりました。

今後の中隊では、期を捉えて暑熱順化訓練を実施し、猛暑下においても野整備任務の完遂を図ります。



夏季前に暑熱順化訓練を行うことにより、熱中症等のリスクを軽減することができます。段階的なカリキュラムを経て、最終的には防寒用戦闘服を着用し訓練を実施しました。

自衛隊大分地方協力本部 援護課 大分地域援護センター

インターンシップ

大分地域援護センターは、令和7年4月23日（水）、大分県内運輸各協会（バス・トラック・タクシー）が主催する第1回インターンシップを支援し、任期・定年制の計27名の隊員が参加しました。午前中は、別府市公設地方卸売市場で緊張した面持ちで各種車両に分乗し車両感覚の違いを体験しました。午後は、別府交通センターで各参加企業から詳しい業務内容について説明を受け、積極的に質疑応答を実施し理解を深めました。

5月27日には日本連合警備及び大分第一ホーバードライプが主催する第2回インターンシップを支援し任期・定年制の計27名が参加しました。午前中は、日本連合警備施設で現金警備全般に関する業務を研修するとともに、午後は、西大分のホーバードライプでそれぞれの業務に関する説明受けや質疑応答併せて、各現場のOB隊員から実際の勤務状況の生の声を聞くことが出来ました。センターは、引き続きインターンシップを行い退職隊員の不安の払拭に努めてまいります。



ホーバークラフトを運行する会社へのインターンシップが出来るのは大分県のみである。併せて再就職に向けてのイメージアップが出来た様子でした。

第134地区警務隊 別府派遣隊

警務隊の活動状況

別府派遣隊は、令和7年4月5日（土）別府駐屯地で実施された自衛官候補生課程入隊式に伴い保安業務を実施しました。特に国会議員来駐に伴う要人警護（JCSA）、要人1名に対し警護員1名を同行させる身辺警護の実施により、来駐した国会議員の安全を確保し、同行事の整齊円滑な実施に寄与しました。

また、同年6月7日（土）から14日（土）まで、日出生台演習場において第4師団が実施した第1次師団訓練検閲に伴い、特別施設警護隊員として参加し、小型トラックにドローン探知機材を搭載して、24時間態勢で演習場内等における不審ドローンの監視を実施し、反応があった場合には速やかに現場周辺に臨場する等、迅速なドローン対処を実施して同検閲の整齊円滑な実施に寄与しました。



演習場とその周辺は、ドローンの飛行は原則禁止となっている。警務隊として不審ドローンの迅速な発見・対処が求められています。

第304基地通信中隊 別府派遣隊

令和7年度第2回中隊訓練

別府派遣隊は、令和7年5月27日（火）～29日（木）までの間、別府駐屯地内及び大分分屯地内において、令和7年度第2回中隊訓練に参加しました。

主要演練項目としては、防衛情報通信基盤（D-1）回線障害における携帯衛星通信装置（スターリンク）の構成、警戒・自衛戦闘（不審者対応）及び施設強化等を実施し、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作の練度向上及び戦闘員としての能力向上を図りました。

令和7年12月の総監検閲に向け基地通信隊員として必要な諸動作について演練し通信任務を遂行し得る態勢を確立してまいります。



不審者対応では、ジェスチャーなどを用いて円滑な動作が出来るようになりました。